

## 地域の魅力をおすそ分け

研究推進部長 丹生 憲一

6月9日(水)校外から12人の講師の先生(裏面参照)をお迎えして丹BALIの授業を展開しました。一般クラスでは、5つのテーマ(「伝統・継承」「自然・観光」「歴史・移住」「食文化・恐竜」「食文化・自然」)に分かれ、知の探究コースは8つの班を、「自然・観光」「移住」「食文化(丹波三宝)」に分けて発表を行い、それに対する助言をいただきました。

私は、5時間目は「自然・観光」、6時間目は「移住」のグループに参加しました。そこでいただいていた助言を参考までに紹介しておきます。まず、「丹波竜」について調べた班に対して、谷口進一さんから「地質学の視点から考えてみては?」宮川五十雄さんから「テーマを深めるという場合、どこを掘り下げるか?科学か観光か?」と提案・質問があり、この班は科学的に掘り下げたいと、次回から講座を変更することにしました。「日ケ奥の魅力」「自然活用」の発表に対しては「農村で暮らしたいという人は増えている。丹波は立地条件が良い。春日インターから神戸、京都、大阪、城崎、どこへいくにも80分程度で行ける。「トカイナカ」としての魅力をPRしたい。」(谷口さん)「つり、キャンプなどは魅力的だが、生き物マニアの視点から見ると、違ったものが見える。絶滅危惧種も残っており、人が多く来ることですぐに絶滅することも考えられる。南方系の植物が多く残っていたり、珍しいコケがあったり、ヨダカも見かけられる。そんな視点で見るのも面白いのでは?」「自転車の活動は丹波を移動するのに向いているようで、そのあたりは一宮さんに聞くとよいだろう。」…と、より具体的な視点を与えていただきました。「薬草薬樹公園」の班に対して「中学校の統合で和田中学校がなくなることになる。廃校後の中学校敷地を活かせるかもしれない。」(谷口さん)「高校生にとって薬草薬樹公園は行きたい場所だろうか?何度も通いたい施設だと思うか?」と、違う角度からの指摘も…。「観光スポット」の班に対しては、「これからは、施設がよい、景色がきれいだというだけではリピーターを増やせない。おもてなしの心で、1000人が10回訪れることを目指すべきだろう。」(谷口さん)「黒井城、石籠寺など、渋いところをあげていたが、若い人たちでも行きたい場所だろうか?黒井城といっても、どこまでを城の領域だと捉えるか?」「方言」班に、「他の地域に行くと、自分達の方言に気付かされる。「後ろ」のことを「うら」ということがあるが、神戸などに出ると、「電車のうら」などと言って笑われることがある。同郷だと分かって嬉しくなるものである。」(谷口さん)「方言の魅力のひとつは、お年寄りの記憶をダイレクトに引き出せること。丹波の未来を考えるために、ぜひ、方言でお年寄りから昔の丹波のことを聞いてみては?」(宮川さん)「丹波の自然」班には「丹波市内の森林伐採を調べるという話だったが、林業も今後は注目すべき大切なものだ。地域の木材を使って学校を作ることなどが、今後求められている。」(谷口さん)「丹波の自然の、どの部分(どの魅力)に突っ込んでいくか?班のメンバーが、本気で特別に思い入れのある場所はあるか?」(宮川さん)

1組の「農業体験」班には、丹波市役所の大野さんから助言をいただいています。「Iターンや移住は市でも取り組んでいる課題で、特に農業体験は市が進めている、農の学校に通じるものがある。農業を教えて、最終的には定住してもらうことがその狙い。アンケートについては市で行っている。また、移住テラスという窓口もあり、空き家情報や仕事、子育て支援などの情報を提供している。オンライン相談なども行っている。実際には、住める空き家は少ない。コロナ禍で子育て世代の移住相談は少なく、退職後の人たちが急増した。発表の中で、仕事を確保するという話はあったが、働き方も変わってきていることも考えたい。」

「レンタル農園で人を集める」班には「地域の人とのコミュニケーションをどうとれるか?地元の人たちにとってのメリットも考えたい。実際に、耕作放棄地をタダで貸すから使ってほしいという話も聞くので、農地利用は考えられる。どんな人たちが、丹波を訪れているかは地域おこし協力隊の人が行っている「水分けマルシェ」などを参考にするとよいかもしれない。」

授業の後、講師の先生方から「高校生が地域のことを色々考えてくれていて嬉しい」「昔はこのような授業はなかった」「多くの班で『もっと知りたい』『もっと調べたい』という声があったので期待したい」と皆さんへの期待を感じる一方で、「何のためにこれに取り組んでいるのか明確でない人もいる」「高校生らしい、柔軟な発想で物事を考えてほしい」「丹波の特産が知られていないと、自分の感覚で決めつけるのはどうか?」「今後は客観的なデータも利用してほしい」という意見もいただきました。今学期は、5月23日の授業と7月15日に予定されている発表会でご指導いただく予定です。

### 講師のみなさん

氏名・所属	紹介文
小川 周平 小川教育研究所	プレゼンテーション講座でもお世話になっています。話し方講座などで講師を務める傍ら、柏原町内にある Wise up という塾で講師をされています。
イラズムス千尋 丹波布工房 sankara	自宅の工房で丹波布の制作・販売に携わられています。昨年この講座でお世話になりました。柏原町内の kabura というお店にいらっやいます。
西脇 和樹 にいろ	市内で山野草や丹波らしい景色を題材にデザインした商品を作られている「にいろ」の共同代表を務められています。今回、講師としては初めてお世話になります。
谷口 進一 丹波創生の会	前市長で本校の大先輩でもあります。丹波市の歌を作られたり、ミュージアム構想を手掛けられたり、まちづくりに尽力されてきました。今回、初めてお世話になります。
宮川 五十雄 NPO 森の都研究所	野山に住む鳥、動物（絶滅危惧種なども）、草花（葉草・山菜）のことは何でも詳しい方です。昨年度の講座から、森と防災・自然環境分野でお世話になっています。
出町 慎 関西大佐治スタジオ	青垣町の佐治にある関西大学の佐治スタジオ、衣川會館での「きぬいち」など古民家利用に数多く携わっておられます。昨年の講座もお世話になりました。
中川 ミミ 一般社団法人 Be	空き家利用・移住促進に関われ、1 ターンで丹波市に来て起業される方の支援もされています。昨年の講座でもお世話になりました。
和田 輝政 Imagine 丹波	和田しすてむというコンピューター関係のお仕事をされながら、昨年 from imagine 丹波でお世話になっています。起業・ビジネスについて他校で講座もされています。
鴻谷 佳彦 Imagine 丹波	無鹿リゾートという国内初の鹿料理専門店を経営されています。imagine 丹波の代表で、6 次産業・経営・企業・古民家利用など幅広くお話していただきます。
田中 公教 ちーたんの館	丹波竜化工石工房で研究普及専門員をされています。恐竜が生きていた時代の地球のようすなど、幅広くお話いただけます。昨年もお世話になりました。
吉竹 仁人 明正堂	柏原町内で明正堂というお菓子屋さんをされています。商工会議所を通じて SDG s を啓蒙する活動にも参画されているそうです。昨年末からお世話になっています。
柳川 拓三 やながわ・観光協会	春日町内のやながわというお菓子屋さんを経営され、丹波市の観光協会の会長も務められています。昨年度の講座でもお世話になりました。
白川 やすよ Imagine 丹波	キャリアコンサルタントというお仕事をされています。imagine 丹波の一員として、昨年度からお世話になっています。他校での講座にも参画されています。
一宮 祐輔 丹波市民プラザ	ゆめタウンの 2 階にある市民プラザにおられます。ロードバイクやコーヒーのバリスタなどお話しされることは多彩です。昨年度からお世話になっています。
大野 紗月 丹波市役所	丹波市役所総合政策課にお勤めです。元谷口市長の秘書を務めておられたそうで、初回は同じ講座に付いていただきます。今年、初めてお世話になります。

